

令和3年度

事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1. 概況

令和2年4月1日より新たな組織として「公益社団法人 北海道農産基金協会」が発足し2年が経過しました。

本年度につきましては、昨年より続く新型コロナウイルスの影響のため一部業務の内容変更などを余儀なくされましたが、主たる各事業については事業計画に従い取り進めました。

各種会議も状況に応じリモートの活用など、コロナ禍の中でも可能な対応を行ってまいりました。

○気象経過・生育状況等

5月、6月は平均気温も総じて高く、日照時間も平年並みであったことから、畑作物の播種や初期生育は概ね平年並みに推移しました。

7月に入り気温・日照時間は平年をかなり上回り、真夏日が連続する地区もありました。降水量はかなり少ない状況が続き、少雨による葉の萎れや枯凋が見られ、各作物の生育が緩慢になるなどの影響が出始めました。

8月に入って気温・降水量は平年並み、日照時間はやや長く推移したため、生育の回復が見られた作物がある一方、長期間の少雨の影響を受けた作物もあり、馬鈴しょ、玉ねぎなどは収穫作業は早めに進んだものの、小玉傾向となりました。

9月、10月は地域による差も見られたものの、気温は平年並みから高く、降水量は少なく、日照時間も多めで推移したため、農作物の収穫作業は平年並みから早く進みました。

○各品目の状況

(豆類関係)

豆類については、令和3年産の作付面積が大豆は42,000haで前年を3,100ha上回り、その分小豆は19,000haと前年から3,100ha減少し、作付指標面積22,100haには届かない結果となりました。

菜豆類については、金時が4,830ha(前年比+50ha)、大手亡が1,500ha(前年比-280ha)となりました。

生育は概ね順調に推移したものの、少雨・干ばつや一部地域の霜害もあり各品目とも収量・品質に影響が見られました。

主な事業については、赤系金時の安定的な供給を通じて価格の安定に資するため、「赤系金時安定供給緊急対策事業」を実施しました。

(馬鈴しょ関係)

馬鈴しょについては、作付面積は47,100haと前年を約1,000ha下回り、用途別には生食・加工用約60%、でん粉用約30%、種子用約10%となっております。

反収は平年を下回り、収穫量は1,686,000トン(前年比97%)、馬鈴しょでん粉は原料処理量が701,600トン、生産量は150,000トンを見込んでいます。

主な事業については、公募によるでん粉原料用馬鈴しょの品種改良や病虫害対策に対する「研究助成事業」、令和2年産でん粉の「調整保管事業」の事業費支出を行いました。

(青果物関係)

野菜関係については、夏場の高温と干ばつの影響から多くの品目で数量や品質の低下が見られました。

しかしながら、需要全体の落ち込みから玉ねぎ・馬鈴しょを除く一般野菜全般に市況安が続き、今年度の「野菜価格安定事業」はごぼうなどへの交付により補助額は前年を上回りました。

果実関係については、近年、国産ワイン需要の高まりがあり、北海道でも新たな担い手によるワイン用ぶどう栽培が本格化し、「果樹経営支援対策事業」の全体の9割近くになっております。それに伴い、新たな産地協議会の設立も進んでおります。

加工・業務用野菜の生産基盤の強化に向け、道内における「大規模契約栽培産地育成強化事業」の実施を事務支援しております。

2. 組織に関する事項

(1) 会員

区 分	前期末	加入	合併	令和4年3月末
正会員	110	0	0	110

(2) 預り基金

(単位:千円)

区 分	預り基金
北海道	1,345,000
その他自治体(9市)	46,000
農業協同組合(87JA)	2,999,095
農協連合会(4団体)	1,293,900
その他農業団体(9団体)	2,053,100
計	7,737,095

(3) 役員

区分	前期末	当期就任	当期退任	令和4年 3月末	定款に決める 役員の定数
理事	16	5	5	16	14名以上16名以内
監事	1	1	1	1	1名
合計	17	5	5	17	

役員名簿

役職名	氏 名	所属団体・役職名
理事長	小野寺 俊 幸	北海道農業協同組合中央会 代表理事会長
副理事長	村 木 秀 雄	ホクレン農業協同組合連合会 代表理事副会長
専務理事	五 藤 一 彦	学識経験者
常務理事	大 西 晃 靖	〃
常務理事	中 島 隆 宏	〃
理 事	牧 野 充	北海道農政部生産振興局 農産振興課長

理事	飯田 道夫	公益財団法人日本豆類協会 常務理事
理事	八田 米造	ようてい農業協同組合 代表理事組合長
理事	川村 義宏	北石狩農業協同組合 代表理事組合長
理事	成田 正夫	ながめま農業協同組合 代表理事組合長
理事	畑山 義裕	東旭川農業協同組合 代表理事組合長
理事	清野 政彦	美幌町農業協同組合 代表理事組合長
理事	笠井 安弘	音更町農業協同組合 代表理事組合長
理事	高橋 勝義	中標津町農業協同組合 代表理事組合長
理事	梶原 雅仁	豆の国十勝協同組合 理事長
理事	太田 孝夫	北海道澱粉工業協同組合 理事長
監事	高井 一英	とうや湖農業協同組合 代表理事組合長

(4) 会計監査人

氏名	所属
清平 秀幸	清平秀幸公認会計士事務所

(5) 業務評価委員会

業務評価委員（豆類）名簿

氏名	所属・職名
角谷 徳道	公益財団法人日本豆類協会 事務局長
山根 敏史	北海道農政部生産振興局農産振興課課長補佐
富田 謙一	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部十勝農業試験場 研究部長
平野 茂貴	北海道農業協同組合中央会 農政対策部米穀農産課長
長谷川 幸男	ホクレン農業協同組合連合会 農産事業本部農産部長
森 勝	十勝高島農業協同組合 農産部長
市村 誠	本別町農業協同組合 農産部長
前田 英典	女満別町農業協同組合 参事

業務評価委員（馬鈴しょ）名簿

氏名	所属・職名
豊口 享志	北海道農政部生産振興局農産振興課 畑作グループ主幹
平野 茂貴	北海道農業協同組合中央会 農政対策部米穀農産課長
長谷川 幸男	ホクレン農業協同組合連合会 農産事業本部農産部長

守屋 明博	ホクレン農業協同組合連合会 種苗園芸部種苗課技師
井川 晃博	中札内村農業協同組合 農産部長
下山 修治	小清水町農業協同組合 販売部長

(6) 職員

区分	前期末	当期増加	当期減少	令和4年3月末
一般職員	10	0	0	10

3. 管理及び運営に関する事項

(1) 総会

① 令和3年度通常総会

ア 開催日 令和3年6月23日(水) 14時30分

イ 開催場所 共済ビル5階(一社)北海道農産協会会議室

ウ 会員数及び出席者数

正会員数 110

総会出席者数 110

(本人出席1、委任状14、議決権行使書95)

エ 議決事項

第1号議案 令和2年度事業報告書、財務諸表、附属明細書、
財産目録について

第2号議案 任期満了に伴う役員の選任について

第3号議案 規程の一部改正について

第4号議案 令和3年度役員報酬について

第5号議案 役員退職慰労金の支給について

(2) 理事会

① 第1回理事会 令和3年6月3日(木)(WEB開催)

ア 議 案

第 1 号議案 令和 2 年度事業報告書、財務諸表、附属明細書、
財産目録について

第 2 号議案 任期満了に伴う役員を選任について

第 3 号議案 規程等の一部改正について

第 4 号議案 令和 3 年度役員報酬について

第 5 号議案 役員退職慰労金の支給について

第 6 号議案 令和 3 年度通常総会の開催について

第 7 号議案 会計監査人の報酬について

第 8 号議案 準備金の取崩しについて

③ 第 2 回理事会 令和 3 年 6 月 2 3 日（水）（書面決議）

ア 議 案

第 1 号議案 理事長の選定について

第 2 号議案 副理事長の選定について

第 3 号議案 専務理事の選定について

第 4 号議案 常務理事の選定について

④ 第 3 回理事会 令和 3 年 1 0 月 2 6 日（火）

ア 議 案

第 1 号議案 令和 3 年産対象豆類の基準価格並びに価格差補て
ん対象数量について

第 2 号議案 令和 3 年産事業対象馬鈴しょでん粉調整販売計画
について

第 3 号議案 北海道農産基金協会と北海道農産協会事務所のワ
ンフロア化について

第 4 号議案 資産運用執行責任者の任命について

第 5 号議案 役員賠償責任保険契約の締結について

イ 報告事項

報告事項 1 号 令和 3 年度上半期事業報告並びに収支報告について

同 監査報告について

報告事項 2 号 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事の職務の執行状況について

報告事項 3 号 資産の運用状況と今後の取進めについて

報告事項 4 号 令和 2 年産事業対象馬鈴しょでん粉調整保管事業の結果について

報告事項 5 号 令和 3 年度下半期事業対応について

④ 第 4 回理事会 令和 3 年 3 月 2 8 日 (月)

ア 議 案

第 1 号議案 令和 4 年度事業計画及び収支予算について

第 2 号議案 北海道農産基金協会と北海道農産協会事務所のワンフロア化について

第 3 号議案 規程等の一部改正について

イ 報告事項

報告事項 1 号 令和 3 年度下半期の業務執行状況について

報告事項 2 号 資産の運用状況と今後の取進めについて

報告事項 3 号 令和 4 年度事業に係る公募結果について

(3) 監事監査

第 1 回監事監査 令和 3 年 5 月 3 1 日 (火) (書面審査)

議 題 令和 2 年度公益社団法人北海道農産基金協会の決算等について

第 2 回監事監査 令和 3 年 1 0 月 2 6 日 (火)

議 題 令和 3 年度上半期事業報告並びに収支報告について

(4) 会計監査

第1回会計監査人監査 令和3年5月11日(火)

議 題 前事業年度会計監査について

第2回会計監査人監査 令和3年10月20日(水)

議 題 上半期財務諸表検証について

(5) 業務評価委員会

第1回業務評価委員会(豆類)

令和3年5月24日(月)(書面開催)

報告事項 1) 令和2年度赤系金時安定供給緊急対策事業実施報告について

2) 令和2年度小豆類生産安定運動推進事業(安定生産啓発特別事業)実施報告について

審議事項 1) 令和2年度事業報告、実績報告(案)について

第1回業務評価委員会(馬鈴しょ)

令和3年5月25日(火)(書面開催)

報告事項 1) 令和2年度 生産流通振興事業結果の概要について

審議事項 1) 令和2年度 事業報告書(案)について

第2回業務評価委員会(豆類)

令和3年10月21日(木)

報告事項 1) 令和3年産道産豆類の需給見込について

2) 令和3年度赤系金時安定供給緊急対策事業の取組状況等について

審議事項 1) 令和3年産対象豆類の基準価格(案)について

2) 令和3年産対象豆類の価格差補てん対象数量(案)

について

第2回業務評価委員会（馬鈴しょ）

令和3年10月21日（木）

報告事項 1) 令和2年産事業対象馬鈴しょでん粉調整保管事業の結果について

審議事項 1) 令和3年産事業対象馬鈴しょでん粉調整販売計画（案）について

その他 1) 第28回馬鈴しょ栽培講習会の開催について

第3回業務評価委員会（豆類）

令和4年3月18日（金）（WEB開催）

報告事項 1) 令和3年産道産豆類の需給見込について
2) 令和4年度事業に係る公募結果について

審議事項 1) 令和4年度事業計画（案）について

第3回業務評価委員会（馬鈴しょ）

令和4年3月18日（金）

報告事項 1) 令和4年度事業に係る公募結果について
2) 令和4年産馬鈴しょでん粉需給推算について
3) 第28回馬鈴しょ及びでん粉講習会について

審議事項 1) 令和4年度事業計画（案）について

4. 収支及び財務に関する事項

(1) 収支（経常増減）について

今年度の経常収益は、主に国内債券による運用を図り、運用益は年間1億65百万円となりました。また、経常費用につきましては、事業費19億14百万円、管理費12百万円、合計19億26百万円となり、

その結果、評価損益等調整前の経常増減額は1億37百万円の減となりました。

特定資産評価損益と償還損益の合計は19百万円となり、これらを含めた当期経常増減額は1億18百万円の減となりました。

なお、満期償還となった債券を財源とし、国内債1億円（額面）を購入しました。

（2）資産の状況

資産総額は期首に比較して2億75百万円の減少となりました。これは、主に赤系金時安定供給緊急対策事業に係る事業費97百万円や、馬鈴しょ澱粉調整保管事業に係る事業費83百万円を、それぞれ準備財産を取り崩して支出したほか、青果物に係る事業資金が減少したことなどによります。

（単位：千円）

科 目	前期末残高	当期末残高	増減
流動資産合計	230,991	555,210	324,219
保管財産	7,737,095	7,737,095	0
事業基盤財産	2,135,105	2,152,972	17,867
運営基盤財産	119,440	122,105	2,665
事業準備財産	1,660,704	0	△1,660,704
特別事業財産	1,462,775	1,306,089	△156,686
退職給付引当資産	3,001	3,812	811
特定資産 計	13,118,120	11,322,072	△1,796,048
固定資産合計	13,119,133	12,518,935	△600,198
資産合計	13,350,124	13,074,145	△275,979

注：四捨五入の関係で、各資産の金額と合計は必ずしも一致しない。

5. 事業に関する事項

(1) 豆類関係

① 豆類価格安定対策事業

ア 令和2年産豆類価格安定対策事業

令和2年産対象豆類に係る価格差補てん事業については、対象豆類の平均販売価格がいずれも補てん基準価格を上回ったため、発動はありませんでした。

(参考) 令和2年産対象豆類の販売状況

ホクレン農業協同組合連合会

品名	等級	項目	調整販売				
			数量 金額	内 訳			
				10-12月	1-3月	4-6月	7-9月
大正金時	2等	販売計画 (俵)	112,381	37,600	29,100	22,300	23,381
		販売実績 (俵)	112,381	37,750	24,230	23,330	27,071
		販売金額(千円)	3,919,737	-	-	-	-
		総販売単価(円)	34,879	-	-	-	-
		平均販売価格(円)	33,179円 <精算：令和3年9月30日> ★ 補てん基準価格 25,900円				
北海金時	2等	販売計画 (俵)	2,134	700	600	400	434
		販売実績 (俵)	2,134	600	340	390	804
		販売金額(千円)	78,958	-	-	-	-
		総販売単価(円)	37,000	-	-	-	-
		平均販売価格(円)	35,300円 <精算：令和3年9月30日> ★ 補てん基準価格 25,900円				
大手亡	2等	販売計画 (俵)	43,872	11,900	11,500	9,700	10,772
		販売実績 (俵)	43,872	1,010	20,880	9,350	12,632
		販売金額(千円)	1,142,953	-	-	-	-
		総販売単価(円)	26,052	-	-	-	-
		平均販売価格(円)	24,352円 <精算：令和3年9月30日> ★ 補てん基準価格 17,790円				

(注) 合計値と内訳は、ラウンドの関係で一致しない。

イ 令和3年産対象豆類の基準価格

令和3年産対象豆類の価格差補てん事業の基準価格については、令和3年10月21日に開催された第2回業務評価委員会の意見を聴き、10月26日に開催された第3回理事会の議決を経て、10月27日に北海道知事の承認を受けたので、同日付けで次のとおり公告しました。

[基準価格]

項目 品目	規格 等級	単位 (kg)	場所	基準価格(円)		(参考) 基本価格 (円)
				補てん 基準価格	最低 基準価格	
金時	2等	60	産地倉庫	21,610	16,810	24,010
大手亡	同上	同上	同上	17,910	13,930	19,900

ウ 令和3年産対象豆類の対象数量

令和3年産対象豆類の対象数量については、令和3年10月21日に開催された第2回業務評価委員会の意見を聴き、10月26日に開催された第3回理事会の議決を経て、10月26日付けで、次のとおり決めました。

対象数量	152,107	俵
内訳		
大正金時	109,700	俵
北海金時	3,267	俵
大手亡	39,140	俵

エ 令和3年度赤系金時安定供給緊急対策事業

赤系金時の安定生産を通じて価格の安定を図るため、26集荷団体を經由して、1,099戸の生産者が約3,881haに播種した優良種子の代金の一部として助成金96,693千円を交付しました。

② 小豆類生産安定対策事業

小豆類については、平成27年産において需給が極めて緩和していたことから計画的に需給改善を図ることとし、平成28年産から生産目標面積（作付指標面積と同意。）に即した作付面積を確保するための「小豆類生産安定運動推進事業（安定生産啓発特別事業）」を令和2年度まで実施してきましたが、本年度は実施しておりません。

③ 豆類生産流通安定推進事業

豆類の安定的な生産流通に資するため、雑豆に関する関係者間の情報の交換・共有化を図るための会議の開催、雑豆の安定的供給に必要な生産者の意向や、豆類の生産・流通・消費動向等に関する調査を委託したほか、雑豆の生産目標面積の設定等を行いました。

ア 豆類需給安定会議の開催

豆類需給安定会議については、一般社団法人全国豆類振興会及び北海道豆類振興会との共催により、令和3年9月9日に帯広市において、開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、WEBによる開催に変更して実施しました。

イ 雑豆の安定的供給に必要な委託調査の実施

豆類の生産目標面積に関する業務については、「豆類の生産目標面積設定に係る情報の収集及び当該面積の周知に関する業務」を北海道農業協同組合中央会に委託（委託額1,000千円）し、令和4年産雑豆に係る作付意向の把握、地域別生産目標面積の策定、当該面積の生産者への啓発に要する費用を委託費として支出しました。

また、「豆類生産・流通・消費動向の調査に関する業務」について

は、ホクレン農業協同組合連合会に委託（実績額 3, 188 千円）

し、道内における 3 年度の雑豆の生産（作付及び収穫）動向並びに全国主要消費地域における雑豆の消費動向に関する調査に要する費用を委託費として支出しました。

ウ 生産目標面積の設定・周知

イの委託調査を通じて得られた情報等を踏まえ、需要に即した計画的な雑豆の供給に資するため、令和 3 年 12 月 6 日付けで令和 4 年産の雑豆の生産目標面積を設定しました。

④ 豆類消費啓発助成等事業

豆類消費啓発助成等事業については、広く課題を募集し、公募事業等審査委員会において選定された課題について助成金を交付する方法により実施しています。

令和 3 年度の事業については、令和 2 年 12 月 1 日に当協会ホームページに公募要領を掲載し、令和 3 年 2 月 3 日に開催した審査委員会において、「北海道豆・トークショー 2021」の開催委託業務の他、6 課題が選定されました。

ア 北海道・豆トークショー 2021 の開催

令和 3 年 10 月 13 日、豆の日（10 月 13 日）の協賛行事である「北海道・豆トークショー 2021」を旭川市において開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。その後、実施内容を見直して SNS 等を活用した開催に変更して実施しました。なお、一部業務については「業務の実施補助者」として選定された株式会社フラクタルとの間で委託契約を締結し、委託費（1,

650千円)を支出しました。

イ 豆類消費啓発助成等事業のうち助成事業は、次の6課題が選定され、助成金(計10,000千円)を交付しました。

採 択 課 題 名	実施者	助成限度額 (千円)
「北海道豆加工品フェア」の開催	朝日アグリ	1,896
調理学校生による豆料理レシピ動画制作・公開	朝日アグリ	2,380
食育*雑豆教室&育てソダテ空まで届け!雑豆校内菜園	フラクタル	1,501
札幌市内調理専門学校学生を対象「知っておきたい道産雑豆講座」	フラクタル	1,044
北海道の和菓子を食べようスタンプラリー	ブレナイ社	1,830
道産小豆×札幌カフェ「あんこスイーツフェア」	ブレナイ社	1,349

⑤ 豆類調査研究助成事業

豆類調査研究助成事業については、豆類消費啓発助成等事業と同様、当協会ホームページで募集し、公募事業等審査委員会において次の3課題が新たに選定され、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部十勝農業試験場、名寄市立大学及び国立大学法人北海道大学北方生物圏フィールド科学センターに助成金(計5,000千円)を交付しました。

< 令和 3 年度新規採択課題 >

実 施 課 題 名	実施者	助成限度額 (千円)
金時新品種の導入に向けた実規模栽培・加工適性実証試験	十勝農試	2,900
北海道産小豆新品種の機能性評価と新たな調理加工方法の開発	名寄市立大	1,000
LAMP 法改良によるアズキ土壌病原微生物の同時検出法開発	北海道大	1,100

また、前年度までに採択された次の 4 課題については、複数年度事業として選定された課題であり、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部中央農業試験場及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部十勝農業試験場に助成金(計 9,000 千円)を交付しました。

< 令和 3 年度継続課題 >

実 施 課 題 名	実施者	助成限度額 (千円)
土壌病害抵抗性に優れる小豆品種の開発促進	中央農試	1,000
小豆の耐冷・耐病性に優れる品種開発促進	十勝農試	3,500
菜豆の多収・耐病性に優れる品種開発促進	十勝農試	3,500
畑作地帯での小豆の拡大・導入に向けた作業体系別のコスト指標の策定	十勝農試	1,000

⑥ 豆類流通円滑化緊急対策事業

豆類の円滑な流通に重大な支障を生じる恐れのある事態が発生した場合に緊急的な対応を行うこととしています。(予算額 5 千万円)

(2)馬鈴しょ関係

① 研究助成事業

馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の生産や供給の安定確保に資するため、品種改良、病虫害対策、栽培技術開発、及び需給に係る調査研究等の課題について公募を行い、採択された課題に対して助成事業を行いました。

本年度は、12課題に対し27,327千円の助成金を交付しました。

令和3年度生産流通振興事業 一覧表

区分	課題名	実施者	事業費 (千円)
品種改良	馬鈴しょ疫病圃場抵抗性系統の開発促進	北見農試	2,500
	でん粉原料用馬鈴しょにおける高品質でん粉系統の開発促進	〃	2,500
	馬鈴しょGr・PVY等の抵抗性品種開発強化および特性検定試験	〃	3,500
	でん粉原料用馬鈴しょにおける早掘り適性をもつ多収品種の開発強化	〃	3,500
	DNAマーカーを用いたでん粉原料用馬鈴しょの効率的育種法の開発	帯広畜産大学	3,858
病虫害	オホーツク地方におけるでん粉原料用馬鈴しょの早期枯凋症状の原因解明と被害軽減対策の検討	北見農試	2,000
	インファロー散布を活用した馬鈴しょ害虫の防除法の確立	〃	2,500
	ジャガイモシロシストセンチュウ地域個体群の抵抗性品種等に対する寄生特性および遺伝的多様度の解明	北農研	1,880
	ジャガイモYウイルスの茎葉への移行速度とアブラムシ媒介率との関係	〃	1,000
	馬鈴しょ実生の雑草化リスクと病虫害への影響の検証	〃	1,268
栽培技術	でん粉原料用ばれいしょ新品種「コナヒメ」の安定生産のための栽培法の開発	十勝農試	2,000
	ジベレリンおよびジャスモン酸処理を組み合わせたでん粉原料用馬鈴しょの多収栽培技術の開発	北農研	821
合計			27,327

② 普及啓発事業

馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の安定生産及び生産性向上に寄与するため、協会だよりの発行及び馬鈴しょ及びでん粉講習会の開催等によっ

て、馬鈴しょの栽培技術・品種開発・流通動向等に係る各種情報の普及啓発を図りました。

ア. 「協会だより」の発行

(ア) 発行月日

- ・第50号 令和3年9月1日
- ・第51号 令和4年1月1日

(イ) 主な内容

○第50号

- ・新役員紹介（五藤専務）
- ・北海道農産基金協会通常総会の概要
- ・澱粉工場長会議の概要

○第51号

- ・小野寺理事長 新年の挨拶
- ・北海道澱粉工業協会定期総会の概要
- ・でん粉産地代表者会議、澱粉工場長会議の概要
- ・第28回馬鈴しょ及びでん粉講習会の開催案内

イ. 第28回馬鈴しょ及びでん粉講習会（WEB）

(ア) 昨年と同様に、講演映像を協会ホームページ経由で視聴する
WEBでの開催としました。（2/24～）

(イ) 講演について

○北海道産馬鈴しょでん粉を巡る一般情勢について

ホクレン農産事業本部 農産部 でん粉課 課長 窪田満氏

○ジャガイモYウイルス（塊茎えそ系統）について

(独)道総研 中央農試 病虫部 予察診断グループ

主査 山名利一 氏

○ジャガイモシストセンチュウ類を対象としたLAMP法による

簡便な診断技術の開発

(国研) 農研機構 植物防疫研究部門 基盤防除技術研究領域

越境性・高リスク病害虫対策グループ(線虫) 上級研究員 酒井啓充 氏

(ウ) 視聴集計結果について

3/末現在でアクセス総数472件、その主だった地域は日胆・石狩、十勝及びオホーツク・根釧で各々約30%を占めていました。

視聴者の所属は「JAグループ・生産者・普及センター」が約60%を占めていました。

③ 需給調整事業

令和2年産でん粉の「調整保管事業」助成金については、令和3年10月に指定調整販売団体のホクレンに対し82,663,108円を交付しました。

また、同助成金のホクレンから各集荷団体への交付は、調整保管数量に応じて実施されました。

新型コロナウイルスによる消費への影響が不透明な状況は今後も続くと思われませんが、需要は前年産を上回ると見込まれています。一方で、令和3年産の不作によって供給量が減少することから、次期への繰り越し数量は適正数量を下回る見込みとなりました。

以上の結果、令和3年産でん粉の「調整保管事業」は発動しませんでした。

(3) 青果物関係

① 野菜関係事業

ア 野菜価格安定対策事業(特定野菜等供給産地育成価格差補給事業)

(ア) 交付予約数量及び総出荷数量

令和3年度の登録出荷団体からの交付予約の状況は、特定野菜が6,210t・指定野菜が200tで、合計は6,410t(前年比89%)の申込みとなり、前年を下回っています。

内訳としては、ごぼう(430t減)と、かぼちゃ(340t減)の申込みが減少しています。

単位：t. %

	3年度 A	2年度 B	元年度 C	対比	
				A/B	A/C
特定野菜	(7,609) 6,210	(8,905) 6,990	(8,626) 7,210	(85) 89	(88) 86
指定野菜	(90) 200	(70) 215	(204) 230	(129) 93	(44) 87
計	(7,699) 6,410	(8,975) 7,205	(8,830) 7,440	(86) 89	(87) 86

※()内は総出荷数量

(イ) 価格差補給金の造成額

令和3年度の事業資金造成額は、予約数量が減少したものの、補給金交付の発動基準となる保証基準額の改定(2生産第2576号農林水産省生産局長通知)に伴う資金造成単価の引き上げから、資金総額で1億80百万円(前年比91%)となりました。

平成31年1月の収入保険制度の開始から野菜価格安定制度との重複加入(同時加入)ができないため、今後も減少が続くと予想されます。なお、特例として当分の間は収入保険の申込みをしたことがない利用者は、収入保険と野菜価格安定制度の同時利用が可能となります。

単位：千円. %

	3年度 A	2年度 B	元年度 C	対比	
				A/B	A/C
特定野菜 (機構)	175,757 (75,350)	193,132 (82,379)	197,223 (84,503)	91 (91)	89 (89)
指定野菜 (機構)	4,094 (2,047)	4,358 (2,179)	4,239 (2,120)	94 (94)	97 (97)
計 (機構)	179,851 (77,397)	197,490 (84,558)	201,462 (86,623)	91 (92)	89 (89)

※()内は機構からの助成額で資金総額の内数

(ウ) 価格差補給資金の交付状況

令和3年度の野菜類は、夏場の高温と干ばつの影響で生育が停滞したことから、玉ねぎや馬鈴しょをはじめ、多くの園芸品目で数量や品質の低下が見られました。

市場では、コロナ禍での巣籠もり需要が見られなくなったことや、長期化による需要全体の落ち込みなどから、玉ねぎ・馬鈴しょを除く一般野菜全般的に市況安が続きました。

このような状況の中、夏はくさい(8/11～10/15)の東海ブロック、ごぼう(10月～12月)の全ブロック(北海道・関東・東海・近畿・中国・四国・九州)、やまのいも(1月～3月)の近畿・九州ブロックで保証基準額を下回ったことから、20百万円の補給金交付を行っています。

単位：千円、%

	3年度 A	2年度 B	元年度 C	対比	
				A/B	A/C
特定野菜 (機構)	20,101 (6,700)	4,050 (1,350)	35,965 (11,988)	496 (496)	56 (56)
指定野菜 (機構)	19 (9)	0 (0)	0 ()	0 (0)	0 (0)
計 (機構)	20,120 (6,709)	4,050 (1,350)	35,965 (11,988)	497 (497)	56 (56)

※ () は機構からの助成額で資金総額の内数

(ウ) 価格差補給資金の資金保有額

令和3年度は、価格低落による補給金交付を行ったことから期末の保有額は1億60百万円(前年差34百万円減)となっています。

内訳としては、機構が71百万円・協会(道、登録出荷団体)が89百万円で、全額を翌年度の事業資金に繰入します。

単位：千円、%

	3年度 A	2年度 B	元年度 C	対比	
				A/B	A/C
特定野菜 (機構)	155,657 (68,650)	189,082 (81,029)	161,259 (72,515)	82 (85)	97 (95)
指定野菜 (機構)	4,075 (2,037)	4,358 (2,179)	4,239 (2,120)	94 (93)	96 (96)
計 (機構)	159,732 (70,687)	193,440 (83,208)	165,498 (74,635)	83 (85)	97 (95)

※ () は機構からの助成額で資金総額の内数

イ 野菜価格安定対策事業（野菜生産出荷安定資金造成円滑化事業）

指定野菜価格安定対策事業資金の都道府県負担分について、北海道から補助金として受領し、農畜産業振興機構に納付する事業となります。

令和3年度の指定野菜事業の交付予約数量は 617,428 t（前年比 99%）と前年並みで、補助金納付額は 61 百万円（前年 11 億 81 百万円）となっています。

ウ 青果物生産出荷安定対策事業

北海道で生産される野菜の需要と供給を適正に調整し、安定的な出荷を促進するため、ホクレンを事業主体として「需要啓発事業」、「需給調整事業」、「馬鈴しょ・玉ねぎの安定出荷事業」に対して交付金を交付する事業となります。

令和3年度の交付額は 13 億 63 百万円（前年比 97%）となっています。

（単位：円）

事業区分	月	期首保有額	資金受入額	交付額	資金保有額
需要啓発等	4月～ 翌3月	109,285,877	107,908,718	66,806,038	150,388,557
需給調整等		224,726,192	46,527,242	49,672,499	251,784,430
振替			30,203,495		
安定出荷		994,323,000	1,069,004,726	1,246,461,861	786,662,370
振替				30,203,495	
計		1,328,335,069	1,253,644,181	1,393,143,893	1,188,835,357
合 計（振替除く）			1,223,440,686	1,362,940,398	1,188,835,357

② 果実関係

ア 果樹経営支援対策事業（整備事業）

令和3年度は、事業主体者（中央果実協会）から交付決定承認を得ている当年度事業完了分（2年度・3年度）について、93 百万円（前年比 140%）の補助を行っています。

対象産地は七飯町・壮瞥町・仁木町・余市町・岩見沢市・三笠市・深川市・浦臼町・増毛町・南渡島その他、新たに産地協議会を設立した十勝広域・ニセコ町で、優良品目・品種への転換、新植、傾斜緩

和等の小規模園地整備を含む事業面積、32ha（前年比 103%）の整備に要する経費の補助を行いました。

また、令和 2 年から 3 年の冬季にかけて、大雪による倒木被害が発生したため、特に被害の大きかった空知管内（岩見沢市、深川市）の農業者に対して、自然災害対応の支援を行っています。

（農業者 8 名、面積 1.7ha、補助額 3,747 千円）

単位：千円、%

	3 年度 A	2 年度 B	元年度 C	対比	
				A/B	A/C
事業費	(97,970) 101,978	(92,441) 99,782	(89,658) 91,944	(106) 102	(109) 111
補助金	(88,774) 92,587	(58,051) 65,840	(63,358) 65,082	(153) 141	(140) 142

※（ ）内は事業計画

イ 果樹未収益期間支援事業

令和 3 年度は、整備事業と同じく当年度事業完了分について、改植等を実施した後の収穫が得られるまでの未収益期間の経費助成として 63 百万円（前年比 113%）の補助を行っています。事業面積、約 30ha（前年比 111%）の補助を行い、内 9 割近くが醸造用ぶどう（ワイン用原料）に対する補助となっています。

単位：千円、%

	3 年度 A	2 年度 B	元年度 C	対比	
				A/B	A/C
事業費	(63,960) 66,684	(58,570) 58,634	(54,923) 61,615	(109) 114	(116) 108
補助金	(60,480) 63,298	(55,968) 56,253	(53,712) 60,463	(108) 113	(113) 105

※（ ）内は事業計画

③ その他

ア 端境期等対策産地育成強化支援事業（加工・業務用野菜生産基盤強化支援事業）

令和 3 年度は、平成 28 年度以降に採択された加工・業務用野菜生産基盤強化推進事業における成果報告書、実施状況報告書、事業実施計画の軽微変更等の確認・提出を行った結果、平成 28 年度採択（2 団体）の成果報告書について、評価委員会による事業評価が終了し、農林水産省において公表されています。

なお、令和3年度の実施状況では、コロナ禍による影響から計画変更を余儀なくされる事案が生じたため、独立行政法人農畜産業振興機構（事業実施主体）と連携のうえ、WEB会議を実施しています。

また、次年度から「大規模契約栽培産地育成強化事業」に名称変更される当該事業の応募関係事務について、4団体の応募書類を独立行政法人農畜産業振興機構に提出しています。

[参考]

端境期等対策産地育成強化推進事業実施の概要（北海道分）

採択年度	区分	事業実施主体	事業対象		補助金（千円）			品目	
			面積（ha）	参加者（人）	総額	1年目	2年目		3年目
						@70,000	@50,000		@30,000
28	実績	2	65.0	36	97,500	45,500	32,500	19,500	かぼちゃ、スイートコーン
29	実績	2	231.3	91	346,950	346,950			スイートコーン、たまねぎ
30	実績	8	259.7	121	389,550	389,550			かぼちゃ、キャベツ、スイートコーン、にんじん、さやいんげん
元	実績	4	179.9	161	344,850	344,850			かぼちゃ、スイートコーン、さやいんげん、えだまめ
2	実績	4	190.6	140	285,900	285,900			かぼちゃ、キャベツ、えだまめ
3	実績	2	99.6	39	149,400	149,400			だいこん、生食用かぼちゃ

- (注) 1 H28年度採択は事業評価結果終了
 2 H29年度採択から1年目で補助金総額が交付（@150,000円/10a）
 3 H28年度～R元年度の事業名称は加工・業務用野菜生産基盤強化推進事業
 4 R2年度～R3年度の事業名称は端境期等対策産地育成強化推進事業

イ 全国果樹技術・経営コンクール

令和3年度は、道内の関係機関（北海道、農業試験場、北農中央会、ホクレン、北海道果樹協会、農業改良普及センター等）に対して募集の案内を行いました。当該者の推薦はありませんでした。

これまでの道内農業者の受賞状況（平成11年～令和3年）

受賞内容	受賞回数
農林水産大臣賞	3
農林水産省生産局長賞	2
全国農業協同組合中央会会長賞	4
全農経営管理委員会会長賞	1
全国果樹研究連合会会長賞	3
公益財団法人中央果実協会理事長賞	3
計	16

6. 主要業務に関する事項

(1) 総務関係

月 日	場 所	処 理 事 項
5. 11	札幌市	会計監査人確認検査（財務諸表等及び財産目録）
5. 31	倶知安町	第1回監事監査（書面）
6. 3	札幌市	第1回理事会（WEB）
6. 23	〃	令和3年度通常総会
6. 23	〃	第2回理事会（書面）
8. 11～12	〃	第1回内部監査
10. 20	〃	会計監査人監査（上半期財務諸表検証）
10. 26	〃	第2回監事監査
10. 26	〃	第3回理事会
11. 17	〃	運営組織及び事業活動の状況に関する立入検査（道 法人団体課）
1. 19～20	〃	第2回内部監査
3. 28	〃	第4回理事会

(2) 事業関係

①豆類

月 日	場 所	処 理 事 項
4. 21	札幌市	北海道豆類振興会定期総会
5. 24	〃	第1回業務評価委員会（書面）
6. 24	東京都	全国豆類振興会定期総会（委任状提出）
7. 24	札幌市	北海道豆加工品フェア
9. 9	札幌市他	令和3年度豆類需給安定会議（WEB）
10. 21	札幌市	第2回業務評価委員会
10. 27	札幌市	令和3年産対象豆類基準価格の公告
11下旬-12下旬	旭川市	北海道・豆トークショー2021（動画配信で実施）
12. 8	帯広市	帯広地区懇談会（北海道豆類振興会）
12. 21	札幌市	令和3年産農産物検査標準品地方査定会
1. 18	札幌市	札幌地区懇談会（北海道豆類振興会）

2.3 2.20～	札幌市 北海道 全域	令和3年度公募事業等審査委員会 令和3年度豆作り講習会（日本豆類協会）（WEB）
3.18	札幌市	第3回業務評価委員会（WEB）

②馬鈴しょ

月 日	場 所	処 理 事 項
4.26	札幌市	北海道種馬鈴しょ協議会定期総会（WEB）
5.19	〃	北海道馬鈴しょ協議会通常総会（WEB）
5.20	書面	第24回日本いも類研究会総会
5.25	〃	第1回業務評価委員会
6.8	札幌市	第7回道産馬鈴しょ全体を考える検討専門委員会（WEB）
7.20～21	訓子府町	生産流通振興事業進捗調査（北見農試）
7.27	長沼町	生産流通振興事業監査（中央農試）
7.30	札幌市	生産流通振興事業監査（北農研）
8.3～4	芽室町	生産流通振興事業進捗調査（北農研、十勝農試）
9.1	札幌市	協会だより発行
9.7	〃	第1回黒あし病対策イノベ事業 WEB 会議
9.21	〃	第2回黒あし病対策イノベ事業 WEB 会議
10.12	〃	第8回道産馬鈴しょ全体を考える検討専門委員会
10.21	〃	第2回業務評価委員会
10.29	〃	調整保管事業助成金交付
11.9	〃	第1回北海道馬鈴しょ協議会
11.25	〃	馬鈴しょ輸入品種選定等受託試験及び育成系統連絡試験成績検討会（WEB）
11.29	芽室町	十勝管内現地委託試験成績検討会
11.30	札幌市	道央管内畑作関係現地委託試験成績検討会（WEB）
12.3	〃	令和4年度生産流通振興事業 公募実施（～12/24）
12.14	書面	北見農試現地委託試験成績検討会
1.1	札幌市	協会だより発行

1. 25	札幌市	黒あし病対策イノベ事業成績検討会（WEB）
1. 26	〃	公募事業等審査委員会
2. 21	〃	第9回道産馬鈴しょ全体を考える検討専門委員会
2. 24	〃	第28回馬鈴しょ及びでん粉講習会配信開始
3. 10	〃	農業試験会議（設計会議）作物開発部会（果樹・馬鈴しょ分科会）（WEB）
3. 18	札幌市	第3回業務評価委員会
3. 24	書面	北見農試現地委託試験設計検討会

③青果物

月 日	場 所	処 理 事 項
4. 23	札幌市	令和3年度野菜価格安定対策事業実務担当者説明会（WEB）
5. 17・19	〃	令和3年度端境期等対策産地育成強化事業説明会（WEB）
5. 20	〃	令和3年度果樹経営支援対策事業等全国説明会（WEB）
9. 3	〃	令和3年度東北・北海道青果物価格安定対策事業連絡協議会事務局長会議（WEB）
11. 22	〃	端境期等対策産地育成強化事業の特別事案説明会（WEB）
2. 2	〃	大規模契約栽培産地育成強化推進事業説明会（WEB）
2. 16	〃	令和3年度道県果実基金協会等業務運営協議会（WEB）
2. 18	〃	令和4年度果樹経営支援対策事業産地説明会
3. 14	〃	東北・北海道地区協会の果樹情報交換会